

本校にはHON・YOMOという、立教小学校読書科おすすめの本、四百二十一冊のリストがあります。

1、絵本 2、やさしい読み物 3、読み物 4、読みごたえのある読み物 5、詩・ことば 6、その他 の六つの種類に分かれています。リストには読み終えた日付を書く欄があり、後半には読んだ本や感想を記録するページもあります。三月十四日のオンライン朝礼で、おすすめの本をすべて読破した六年生と三年生の児童の表彰をしました。

・・・・・
HON・YOMOのおすすめの本の中には、ウクライナ民話をもとにした『てぶくろ』という絵本が入っています。七匹の動物がおじいさんの落とした手袋に入り込むというお話です。読んだ人もたくさんいるのではないのでしょうか。このウクライナが今、戦争状態にある「ウクライナ」です。ウクライナの国旗は上が青で下が黄色の二色。青は青空、黄色は小麦畑をイメージしています。小麦がたくさんとれる豊かな美しい国です。それが今、悲惨な状態に。本当に胸が痛みます。

おすすめの本には、本校の六回生、君たちの大先輩の小林豊さんがおかきになった『せかいいち うつくしい ぼくの村』も入っています。ヤモという主人公が父さんとロボのポンパーと、初めて町にすももやさくらんぼを売りに行くこととなります。戦争に行つた

兄さんの代わりに手伝いをするためです。この絵本に出てくる美しいパグマンの村は、アフガニスタンという国の村がモデルになっています。このアフガニスタンという国で、日本人クリスチャン、中村哲さんというお医者さんが、医療だけではなく井戸を掘ったり、用水路を建設したり、アフガニスタンの人々のために働いていたのに、銃で撃たれて亡くなりました。この国もまた安定していません。

残念ながら、世の中には理不尽なことが起きます。「理不尽」というのは、筋道を通らないとか、めちゃくちゃ、どうすることもできないという意味の言葉です。人が原因で起ころる最も理不尽なことは、「戦争」です。自然が引き起こす理不尽なことは、地震や津波などの「天災」です。

先週の三月十一日金曜日、半旗を掲げ、二時四十六分にチャペルのベルを鳴らしたのを覚えてますね。その時、ホームルームの合間に、お祈りをしてくださった人がいたかもしれません。東日本大震災で亡くなった多くの人たちが天国へ召されるように、今もなお苦しんでいる方々を忘れないために、立教小学校では毎年、東日本大震災の起こった日時に、チャペルのベルを鳴らしているのです。

ある本に書いてあったエピソードです。東日本大震災の折、遺体安置所にお経をあげようと、訪ねてきたお坊さんがありました。お坊さんが見たのは、たくさんのお棺おけ。赤ち

やんの遺体を抱いて、涙も枯れ果てて、ぼう然としているお母さんに、お経を頼まれました。日頃、お葬式などでお経をあげているお坊さんです。いわばお経をあげるプロ。そのお坊さんが、お経をあげることができなかった。母親のそばで、涙で声も出せず、ただ、手を合わせて、祈る事しかできなかった。でも、そうこうするうちに、その母親が落ち着きを取り戻したのだそうです。

悲しみのどん底にある人に寄り添い、祈ることで、ひたすら苦しみを共にするという姿勢が、その母親の心を動かしたのかもしれない。お祈りをしたからといって、お腹が一杯になったり、問題が解決したりする訳ではありません。でも、苦しみや絶望の中にある人たちのために、祈ることでひたすら悲しみを共にする。ぼくたちは何もできない、弱者だけれど、世界中の人たちが、絶望的な悲しみや苦しみに耐えている人たちに思いを寄せて、真剣に祈る。あの、赤ちゃんを亡くしたお母さんに落ち着きが出たように、何かが変わるかもしれません。君たちも真剣に祈ってくれますか。私もひたすら祈り続けます。

